

B-ism

NO.2

佛教大学

佛教大学広報誌
mokuji

- 2 巻頭特集 Special CROSS TALK
- 6 「B-L-L」研究報告
- 8 hot-TOPICS. 大学の動向
- 10 オープン・フィールド
- 12 輝き Close Up
- 14 学生編集室の窓
- 16 「密着！岡崎ゼミ」
- 18 hot-TOPICS. 大学の展望
Listen UP—OB・OG訪問
Favorite「先生のお気に入り！」
- 22 B-Information

B-ism

NO.2

発行日
2011年(平成23年)6月3日

発行者
山極 伸之

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/
www.bukkyo-u.ac.jp/mobile/nyushi/

撮影場所 岩倉キャンパス

強い思いで 自分の道を切り開き はばたく

巻頭特集 | スペシャル対談
Special CROSS TALK

西原 加純

Kasumi Nishihara



今振り返って、
佛教大学で学んで良かったことはありますか。

西原 とても楽しく練習する、雰囲気の良いチームなんです。それに、森川賢一監督に出会い、陸上だけでなく人間としても成長させてもらったことが本当に大きかったですね。

大野 僕は実家（京都市伏見区）から通えることもあって佛教大学を選んだので

すが、野球部だけでなく社会学部の友達と過ごす時間もあつたし、環境に恵まれました。関東には、野球部員だけの寮で暮らして、朝から晩まで野球だけという大学もあるけど、僕がそういう生活をしていたら、今ほど成長してはいたかなあ。

お二人とも世界の舞台を経験しています。そこで得たものは何でしょうか。

大野 4回生の夏にオランダで行われた国際大会に出場しました。大会前半はキューバ戦やオランダ戦で投げましたが、打者の腕が長いしパワーもすごくて、日本なら打たれない球も通用せず負けてしまい、日本の野球の小ささを感じました。すごく悩んだけれど、いろいろ工夫をして、もう一度キューバと対戦した試合では勝てた。その達成感

2012年(平成24年)に開学100周年を迎える佛教大学は、各界へ多彩な人材を輩出してきた。スポーツでも日本を代表する選手が育っている。

在学中に世界へ通じる活躍をし、2011年春に卒業してさらに高いステージへと巣立った、プロ野球・中日ドラゴンズ入団の大野雄大さんと、陸上長距離でユニバーシアード優勝の西原加純さんが、佛教大学での4年間の軌跡や将来の夢を語りあい、後輩へのメッセージを送ってくれた。

大野 雄大

Yudai Ohno



学生時代は、自分のレベルを高めるためにどんな意識を持っていましたか。

大野 佛教大学に入った時から「プロ野球選手になる」と思っていました。そのモチベーションが支えでした。強い気持ちがあったから、練習をしっかりとやるなどの行動に移せた。

佛教大学には過去1人しかプロ入りした先輩がいない

かだったので、プロになるにはどうすればいいんやろうと思うこともあつたけれど、時には失敗することがあつても自分が道を切り開いて行こう、と考えていました。

西原 入学した時は、とにかく4年間頑張つて走ろうとだけ思っていました。1年に1回くらい、思うように走れなくて苦しくなると、陸上をやめたいと思うこともありましたけれど。

大野 やめたいと思ったことがあるんですね。びっくりしました。

西原 でも、そんな時によく考えると、自分は走ることが好きだし、自分が走る姿を見て喜んでくれる人もいます。自分を支えてくれる人もいることに気づくんです。そんな人たちに、もっと強くなった自分を見せたいという気持ちが、新たな力になりましたね。



西原 加純(にしはら・かすみ)
1989年3月1日生まれ。京都府立宮津高校から佛教大学教育学部臨床心理学科へ。3回生の夏にユニバーシアードで日本代表として出場し10000m金メダル、5000m銀メダル。3、4回生ではチームの主力として全日本大学対校女子駅伝の2連覇に貢献した。卒業後は実業団チームのヤマダ電機に入社。

が全員で名前を書いたんです。
大野 最後のリーグ戦はチームも優勝を逃してしまい、すごく責任を感じましたね。治せなかったのは自分の甘さのせいだと思って。でも、試合に出られなくても道具運びなどに徹したり、練習では積極的に走り込んだり、僕なりにできることをやりました。そんな僕の様子を見て、走り始

大野 夢や目標はいっぱいありますが、まず肩のケガ

これからさらに高いレベルに進みます。どんな目標を持っていま

めた後輩もいてくれたのうれしかったです。
西原 すごくしっかりした考え方を持っていたんですね。

大野 夢や目標はいっぱいありますが、まず肩のケガになり、出場するだけでなく

をしっかりと治して、目の色を変えてできる限りの練習に取り組みたい、と思っています。そして、ケガをしている僕を指名してくれた中日ドラゴンズに、活躍することで恩返ししたいと思います。

西原 実業団に入れば、目指すところは世界選手権や五輪へと変わってきます。そんな大きな大会の代表になり、出場するだけでなく



大野 雄大(おおの・ゆうだい)
1988年9月26日生まれ。京都外大西高校から佛教大学社会学部現代社会学科へ。4回生の春に全日本大学野球選手権で完封勝利を果たし、最速151kmの左腕投手として注目を集めた。その秋に中日ドラゴンズからドラフト1位指名を受け、佛教大学史上2人目のプロ入りを果たした。

やうれしさは、すごく大きかったです。
西原 3回生の夏にセルビアで開かれた学生の世界大会「ユニバーシアード」の一万人で優勝でき、世界を近くに感じました。

大野 キューバに勝った時、イチローさんのように大リーグでプレーしている選手も、すごく努力し考えたから結果が出ているのだと気づき、いっそう尊敬しました。自分もまず日本のプロでしっかりやってから、将来は海外でプレーしたいと思いました。

大野 キューバに勝った時、イチローさんのように大リーグでプレーしている選手も、すごく努力し考えたから結果が出ているのだと気づき、いっそう尊敬しました。自分もまず日本のプロでしっかりやってから、将来は海外でプレーしたいと思いました。

西原 私も学生だけの世界大会で一番になって、次はもっと上の大会に行きたい

逆にお二人とも4回生の年にケガをして、苦しい思いも味わったのですよね。
西原 昨年の2月に脚の付け根を疲労骨折して、4月

逆にお二人とも4回生の年にケガをして、苦しい思いも味わったのですよね。
西原 昨年の2月に脚の付け根を疲労骨折して、4月

に練習を再開しましたが、5月に左足首を痛めました。なので4回生の春はほとんど走れず、毎日のように泣きました。
大野 僕は昨年の8月19日に肩を痛めました。試合の後、左肩にいつもと違う感覚があって。数日後の検査では軽症と言われたのですが、懸命にリハビリをしたけれど思うように回復せず、最後(4回生の秋季)のリーグ戦は一度も投げることができませんでした。

西原 私は、監督が「今はそんな状態だけど、今後一緒に頑張っていこう」と励ましてくれて、他にもいろんな人に支えてもらったおかげで立ち直れました。その恩返しをしたいという思いも、その後の頑張りにつながり、10月の全日本大学対校女子駅伝でも2連覇できたのかな。その時に使った襪(たすき)は、4回生の部員で大学名を刺しゅうして、監督と33人の部員



しっかりといい成績を残したい。そのために練習を積んで、自分の力を伸ばしていきたいと思っています。

の生活が充実するし、4年間で自分が変わり、できなかったこともできるようになると思います。

佛教大学の学生や、これから入学を目指す高校生へ、メッセージを。

西原 大学の4年間は長く思えますが、実際はすごく短くてあっという間に過ぎてしまいます。なので、1日1日を大事にしてほしいですね。それによって毎日

大野 自分の目標や、将来やりたいことをしっかり持って、大学での4年間を過ごして欲しいです。それがあるかどうかで、充実した大学生活になるか、単に学校に来てバイトして毎日が終わるか、大きく変わってきますからね。



水谷 隆之(みずたに たかゆき) 1974年、和歌山県生まれ。東京大学大学院人文社会科学系研究科単位取得満期退学。博士(文学)。日本学術振興会特別研究員、学習院大学 鶴見大学非常勤講師を経て、2007年より現職。専門は日本近世文学で、浮世草子や俳諧、江戸出版文化についての研究を進めている。論文に「団水の好色物―『色道大鼓』巻三の一・五の一を例に」「『団袋』の西鶴―団水との両吟半歌仙について」など。

B-L.L研究報告

「人間の真実を俗文学で描いた」 既存研究を超える丁寧な西鶴探究

日本古典文学学術賞に輝いた 文学部日本文学科講師 水谷隆之



文学部日本文学科の水谷隆之講師が、昨年度の第3回日本古典文学学術賞を受賞した。江戸時代の井原西鶴の晩年の俳諧を深く読みこんだ『団袋(だんぶくろ)』の西鶴―団水との両吟半歌仙について』での受賞。井原西鶴にひかれた理由や江戸文学の魅力について話を聞いた。



井原西鶴(いはら さいかく) 1642年～1693年。江戸時代前期の俳諧・浮世草子作者。大阪の富裕な町人の子で、談林派の俳諧師として活躍。天和2(1682)年に『好色一代男』を刊行、従来になかった斬新な文体で浮世草子と呼ばれる名作を多く残した。「町人物」「好色物」「武家物」などがある。俳諧の素養にもとづいて書かれた文章は簡潔で難解。難解な内容を理解できる知識ある読者がいたとされる。

北条団水(ほうじょう だんすい) 1663年～1711年。江戸前期の俳諧・浮世草子作者。出自は未詳。西鶴の門人で、若いころは紀州や江戸にも住んだらしい。元禄元(1688)年頃、大阪から京都に移住して主に俳諧師として活躍。西鶴没後、大阪の西鶴庵に移住して遺稿を編集し、「西鶴置土産」「西鶴織留」などを刊行した。代表作は『俳諧団袋』や浮世草子『昼夜用心記』『日本新永代蔵』など。

これまでの解釈を覆す読解

「西鶴にひかれたのは面白から。でも、よくわからない文章を書く人だとも思った」。

大学の学部生時代に、そう感じたのが西鶴研究を始めたきっかけだったという。日本の江戸期の文学は、それ以前の上代・中古・中世の古典文学を受け継ぎ、さらにそれを改変し

て当時の社会や風俗を描いている。それだけに、もともとなつた文章や、当時の人々の感覚を理解できなければ作品の本当の意味を読み解けない。

論文の一つを紹介してもらった。西鶴の『懐硯(ふところすずり)』という作品の中に、「案内しつてむかしの寝所」という話がある。淡路島が舞台で、漁師の北岸

久六は東国に鰯網の仕事に出かけたまま、音信不通となつた。久六は入り婿で夫婦仲もよく、妻の両親に孝行を尽くしてもいたのだが、翌年、周囲の者は死んだものとみなして供養をした。みなは妻に再婚を勧め

るが、妻は承知せず髪をそろして夫を弔おうとする。しかし、「それは親への不孝」とみながいい、無理やりに説得して再度入り婿を

とつた。ところが、祝言を挙げた翌朝、夫婦が共寝を

しているところに久六が帰ってくる。久六は事情を話したあと、「ころろしづかに女をさしころし」、新しい婿も討って自らも命を絶つ。西鶴は、久六の行動を「神妙なる取置(殊勝な処置)」と評価する。

でいるのだが、水谷先生は西鶴の頃の伊勢物語の古注積書では「わがせしかごと(神言||約束・誓い)」と読まれていたことに注目した。すると歌の意味は、「以前に私とあなたが交わした夫婦の誓いを守っておくれ」と、全く逆転する。西鶴や当時の読者は『伊勢物語』を、「(新たな男との)妻の今後の幸せ」ではなく、「(元の男との)夫婦の誓い」に注目して読んでいたのだ。つまり西鶴は、「夫婦の誓い」と「親孝行」とをテーマに、片方を選べば片方が失われるという、現実社会のジレンマを描いたということになる。西鶴が「神妙なる取

置」と評価したのは、久六がこの二つの大事な倫理のどちらか命がけで重んじた点なのだった。水谷先生は「西鶴は、噛めば噛むほど味が出る作者です。よく調べると、がらっと読み方が変わることもある。そして日本人のこころの源泉に触れることができる。そこが魅力なんです」と笑う。

受賞は西鶴俳諧の再評価で 日本古典文学学術賞の対象になつたのは、西鶴と弟子の北条団水が2人で詠みあつた連句を分析した論文だ。西鶴が晩年の元禄3年(1690年)に大阪から京都に行き団水宅に逗留、

そのときに詠んだもので、これまでの学界の通説では、談林俳諧で一世を風靡した西鶴も、時代が変わり新たな元禄俳諧についていけず途中で挫折し、半歌仙(36句の歌仙の半分の18句)で終わってしまったとされてきた。それは、この半歌仙が収められた『団袋』の序文に西鶴自らが「老いのせいであまく詠めず、団水の詠む句の後からやと泳ぎ着くようなもので足り重く、ようやく歌仙のなかほどにたどり着き、そこで止めにした」と書いているからでもある。しかし、この『団袋』は団水の編集によるもので、師匠として弟子に花を持たせる序文を書くのは当然のことでもある。

水谷先生は、一句一句を分析して、「談林俳諧の手法を発展させつつ、浮世草子の執筆で培った感覚も生かして、新たな俳諧を実践しようとする積極的な試みに満ちている」として、元

禄俳諧を見据えた新しい試みが達成されていることを解き明かした。ここでも、学界の常識にとらわれずに研究する姿勢が評価を受けたといえる。「学界の常識を覆すというよりはむしろ読み直してみたということ」と話していた。

西鶴の魅力と多彩な活動

和歌山市の出身だけに、江戸時代の豪商、紀伊国屋文左衛門についての論考もある。蜜柑船で大もうけした逸話が実話ではないことは歴史学研究の成果で判明していたが、そうした虚構話の多くが、実は山東京伝、一世・二世為永春水の作品によって徐々に形成されたものであることを、文学研究の側から明らかにしたものだ。最近では、『江戸吉原叢刊』(八木書店、全7巻)の編集にも携わつた。遊郭吉原から発信された江戸の社会・風俗・文化などの流行の変遷が分かる資料集として価値が高い。

など、主に社会の束縛の中で翻弄された男女の不幸に注目して読解されてきた。「でもそのように読むと、久六の最後の行動はどうも開き直りや、やけっぱちのようになってしまひ、西鶴が「神妙なり」と言つて褒めた理由がわからない」と水谷先生は語る。

じつはこの話は、『源氏物語』や和歌など、後の作品に大きな影響を与えた平安時代初期の『伊勢物語』『梓弓(あざゆみ)』の段が下敷きになっている。「梓弓」では3年後に戻ってきた男が、ほかの男と結婚しようとしている女に「梓弓ま弓櫛弓年をへてわかせしかことうるはしみせよ」と詠み、去っていく。この歌は現在では、「長い年月の間、私があなたにしたように、新しい夫に親しんでください」と解釈されている。つまり、濁音を表記しない「わかせしかこと」を「わがせしがごと(私がしたごとく)」と読ん

最後に西鶴の魅力を聞くと、「江戸期に限らず、日本文学には教訓的な要素があります。西鶴はそれに加え、人間の本質を鋭くえぐりだしていく。西鶴は「人は化け物」と言います。人はその時々状況によっていかようにも変化する、という意味です。烏帽子をつければ神主になり、太刀をさせば侍らしく行動する。一方、立派な武家の娘でも落ちぶれて貧乏になれば強請りやたかりもするようになる。そうした人間の様々な姿や本質を、俗文学の中で誇張を交えつつ滑稽に描き出している。人を描くとはまさしく化物(モンスター)を描くことであり、西鶴の描く人間はだから面白」と語る。近年、封建時代で暗かったというイメージから、町人文化はかなり自由で華やかだったと見直されている江戸時代だけに、研究への期待は大きい。

東日本大震災 ボランティア活動 被災地へ。

今、わたしたちに出来ること

2011年3月11日14時46分、東北地方太平洋沖地震が発生し、10mを超える津波が町を飲み込んだ日、学生たちは「何か支援をしたい」と考え、立ち上がりました。

アクションプラン

- ①被災地への支援活動を行います。
- ②中長期にわたって支援策を考えます。
- ③様々なネットワークをつなぎます。

それぞれにできる関わり方で、知恵や思いを共有し、大きな力で「想い」を被災地へ届けます。

アクション1 義援金募金活動

3/14 月曜日 卒業式当日

募金活動人数16名 募金総額：358,215円

義援金は全額『京都新聞社会福祉事業団』へ

4/1 金曜日 入学式当日

募金活動人数24名 募金総額：68,040円

義援金は全額『京都新聞社会福祉事業団』へ

アクション2

『いわてっこ応援! 学生ボランティアバスプロジェクトvol.1』

このプロジェクトは、NPO法人さくらネット（兵庫県西宮市）が企画し、東日本大震災被災地において、学生と現地の子どもや周囲の大人たちと交流できる機会、遊び・食べ・元気になる機会を創ることを目的として実施されました。

4/8 金曜日 19:00

岩手県の被災地へ向けて、28名（教職員5名・学生23名）が出発

4/9 土曜日 13:00

釜石市をバスで現地視察。

4/10 日曜日 11:00

釜石市でプロジェクト開始。

●たこやきを振る舞う

●子どもと遊ぶ

●来場者の方にカーネーションと

スイートピー各200本(計400本)を配る。

16:00 現地から大学へ。

4/11 月曜日 7:30

佛教大学到着



アクション3

『いわてっこ応援! 学生ボランティアバスプロジェクト』報告会

4/21 木曜日 16:15~

佛教大学成徳常照館5階 常照ホール

この報告会は、去る4月10日(日)、岩手県釜石市において行われた、「いわてっこ応援! 学生ボランティアバスプロジェクトvol.1」に参加し、被災地の子どもたちを中心とした避難住民の方々と交流した学生が被災地の状況報告を行い、今後のボランティア活動のあり方を多くの学生と考える機会として開催しました。



学生たちは、各自が在籍している文学部、教育学部、社会学部、社会学部福祉学部の視点で「課題」の提示を行い、その後のパネルディスカッションでは、「私達に何ができるのか」「関西からの支援とは」をテーマに、佛教大学として今後のボランティア活動の足がかりとなる意見の交換が行われました。

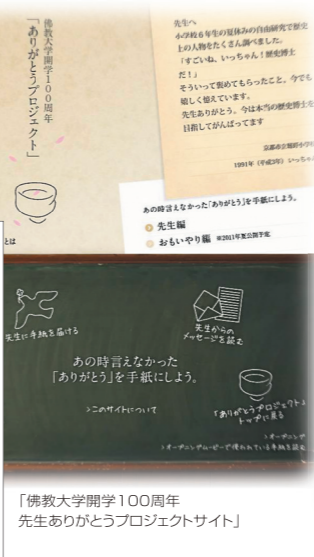
今後の活動

今までの活動を活かして、現地で行える支援、関西で行える支援を的確に把握し、多くの方と連携を図りながら、継続した支援活動を行っていきます。



ありがとうの多い人生は、いい人生だ。

面と向かって言えなかったけど、「先生、ありがとう。」



心からの「ありがとう」たくさん届きました

佛教大学開学100周年 先生ありがとうプロジェクト

2012年の開学100周年を迎えるにあたり、「感謝(ありがとう)」をコンセプトとして、今まで言えなかった感謝の気持ちを伝える「ありがとうプロジェクト」事業を進めています。プロジェクト1年目は、在籍時には言えなかった先生方への感謝の気持ちを伝える、「先生ありがとうプロジェクト」を開催し、ホームページ等を通じ広くメッセージを募集しましたところ、約700通のメッセージが寄せられました。これらのメッセージから数件をピックアップしリーフレットとして、近畿一円の教育機関へ届けました。このメッセージを読んでもう一度、ほんの少しでも先生方の元気の素になったならば、とてもうれしく思います。

プロジェクト2年目は、新しいテーマでのプロジェクトを進めていく予定です。

佛教大学 マスコットキャラクター 「ぶたん」デビュー!!

開学100周年を迎えるにあたり、学生たちのプロジェクトから誕生した佛教大学公式マスコットキャラクター「ぶたん」。

4月1日は本学の入学式。多くの新入生と保護者の方々がキャンパスにいられます。このような機会に、ボランティアの学生とともに「東日本大震災」義援金募金活動を行いました。

多くの方々にたくさんの義援金を頂き、かつ写真を撮ってもらって、とてもご満悦な「ぶたん」でした。

今後も佛教大学のPR活動にどんどん参加する予定です。



Open FIELD 2

実感するものづくり
佛教大学「酒づくりプロジェクト」



淡麗な出来、楽しい「女子会」の雰囲気 佛米! 夢乃酒 2010



酒米の田植えから、販売までを体験する佛教大学の「酒づくりプロジェクト」から生まれたオリジナル日本酒「佛米! 夢乃酒(ぶっこめ)」! 夢乃酒(ゆめのさけ)2010の完成報告会が3月1日、佛教大学四條センター(下京区四條烏丸)で開かれました。3回目を迎えたプロジェクトで、通常の「火入れ」(新酒を62℃~65℃にあためて殺菌すること)に加え、今回初めて「火入れをしない」生酒(なまざけ)の2種類を醸造。稲穂が小さなハート型にデザインされたラベルも学生らしさがあふれています。

報告会では、社会福祉学部社会福祉学科1回生、山内真吾さんと文学部人文学科3回生の畑野麻友さんがプレゼンテーション。昨年4月の田植えから、お酒

酒づくりプロジェクトとは
ものづくりを実感するキャリア教育と、地産地消の地域活性化を促すことを目的に2008年度にスタート。佛教大学と地域連携包括協定(コミュニティキャンパス協定)を結んでいる京都府南丹市美山町で酒米を栽培、招徳酒造株式会社との協力を得て、学生がオリジナル日本酒を造る取り組み。

の完成まで丁寧な説明をしました。今回のお酒のターゲット・コンセプトは、メンバーで議論して「若男女を問わず楽しめる」ものにするに決定、デザインも「女子会を感じさせる薄いブルーの瓶にしたことなどを披露しました。

ちのこもったお酒になったので、ぜひ味わってほしい」と強調していました。

佛教大学
オリジナル日本酒
佛米! 夢乃酒 2010
(ぶっこめ! ゆめのさけ)
お問い合わせは
佛教大学地域連携課
TEL:075-491-2141(代)



2011
June

720ml 価格 1,470円(税込み) 製造元: 招徳酒造(京都府)
純米吟醸 精米歩合: 60% アルコール度数: 「火入れ」15度、「生酒」16度
畑見酒店(京都市北区紫野下門前町 36番地)で販売中

Open FIELD 1

通信教育課程学生会活動
「学び」のある生涯をめざして



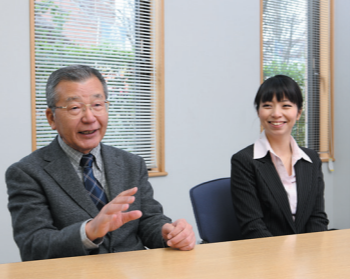
佛教大学紫野キャンパスの鷹陵館メインホールでの卒業式
卒業式では冒頭、東日本大震災の犠牲者に黙祷が捧げられ、厳粛な雰囲気の中で大学院学位記や卒業証書が授与された。(写真右は式後に行われた全員での記念撮影の風景)

全国10ブロック、43支部「支部通信」発行や学習会など多彩な活動
全国の幅広い年代、様々な職業を持つ人たちが学んでいるのが佛教大学通信教育課程です。目的も、働きながら大学卒業や国家資格取得を目指したり、定年後に自身の興味のあることを本格的に学び直すなどさまざまです。ただ、通信制という特性から、学習する環境も孤独にな

「学が人に優しい先生が多い」
学生会支部長経験者の大洞さん、依本さん
学長から感謝状を授与された大洞聡さん(66)と依本真衣さん(24)に学生会活動や通信教育課程ならではの楽しさや苦労を聞きました。
大洞さんは2007年度から

3年間、関東・甲信越ブロック常総支部長を務めました。明治大学を卒業し、生命保険会社に38年間勤務。6年前、定年の年に仏教学科浄土学コースに入学しました。また依本さんは2008年度に近畿ブロック和歌山支部長を務めました。中学の事務職員をしながら20歳で教育学科に入学、小学校教諭免許状を取得し、大阪府内の小学校教員に採用されました。

お二人は「佛教大学の先生方はみな素晴らしい方ばかりで、偉ぶらず丁寧に教えてくださり、勉強しようとする人間に優しい」との意見で一致しました。



(左)大洞 聡さん(右)依本 真衣さん

幅広い人たちとの交流に尽力

通信教育課程の学びをサポートする学生会



りがちです。それをサポートする通信教育課程の学生組織が「学生会」です。自主的な活動で、学生間の親睦を深め合い、人格形成や学力向上にも取り組んでいます。
具体的には、全国を北海道から九州まで10のブロックに分けて、さらに居住地を中心とした43支部で活動し、各地域での支部通信の発行や学習会・講演会の開催、サークル活動などに取り組んでいます。3月と9月の年2回の卒業式(大学院学位記・卒業証書授与式)では卒業するブロック・支部長経験者に、山極伸之学長から感謝状が贈られ表彰されました。

役員は1支部5名程度ですが、毎月1回の科目最終試験時の学生同士の情報交換会の運営や支部通信の発行、年数回の本学から先生をお呼びしての学習会(宿泊)の開催等を行います。大洞さんは「私は人生の楽しみとして入学しました。『毎日日曜日』なので、それほど役員の仕事を大変だと思ったりはしていませんが、依本さんのように仕事を持っている方は、休日もつぶれるのでご苦労されたと思います」と話します。依本さんは「会場設定などで人より早く行かなければならないのがちょっとしんどかったです。が、通信制ならではの幅広い人たちと交流でき、郵便局や薬局などで働く友人ができたことは大変プラスになりました」と振

り返ります。
年齢も職業も違う学生たちが仲良くなるように気遣うのも支部長ら役員の大きな役割です。依本さんは「学科の違う人もいて、教育学科以外のことは詳しくわからないので、相談を受けると同じ学科の友人を紹介したりして輪が広がるように心掛けました。学生会への積極的参加が卒業への早道だと思います」、大洞さんも「環境も性格も違う学生同士が少しでも交流ができるように多くの機会を作ることを心掛け、気楽に支部長を務めました。みなさんには『せっかく入学したのなら役員を経験してみるのもいいですよ』と勧めたい」と話しています。





社会学部 現代社会学科4回生 赤井 明日樹さん

美術部



2009年度の同窓会報「紫野」表紙デザインは、美術部の作品です。

Don't Be Afraid
You can Do it!!

美術部



ハピ×ボス



「縁」を意識し
シンメトリーをテーマに描く

美術部は創部から来年で40年を迎える。現在の部員は20人。油絵、水彩、アクリル、立体が基本になっている。部の幹部を2回生が務め、部を切り盛りするのが伝統だ。赤井さんも2回生で部長を務めた。「人を育成するシステムで、いい試練を与えてもらったと思います」。

「創造すること」で、展覧会には必ず新作を出すというのにも伝統になっている。「大学生になって、自分の思いを自由に創作できる環境にあって、どんどん表現することが大切だと思っています」。

機会だと思ってクラブに入ってほしい。独りでできることもありますが、意見をぶつけ合っている成長の方が強いと思います」

二条キャンパス工事中のフェンスに壁画を描いたアロジエクトの主要メンバーも務めた。「部として取り組みました。文化系の部が、個人ではなく部として大学に貢献できる機会は余りないと思いましたので、とても大切な活動でした。絵は取り壊されましたが、経験は残りますし表彰も受け、私には一番誇らしいことでした」。

自身は、左右対称の「シンメトリー」をテーマにしている。2回生のときに「合掌」をモチーフに描いた。佛教大生になって、何か「縁」というものを意識したからだという。3回生では少しテーマから離れ、型にとらわれずに描くことを心がけたが、4回生でもう一度原点の「シンメトリー」に取り組んでいる。理由は「何かと何かが合わさったときに感じるものがあるから」という。後輩たちには「自分の好きな自分になってほしい」と強調した。

卒業展に向け、学生生活4年間の証として200号クラスの大作に挑戦したいと思っている。



ボランティア活動には出会いがあります
ぜひみんなの参加を



ボランティア室 スタッフ

文学部 人文学科4回生 田中 麻衣さん



ボランティア室は、ボランティア活動を希望する学生をサポートし、また、ボランティアを受け入れる施設・団体や地域とつながることが役目。具体的には学生たちの相談に乗って、それぞれにあった活動をコーディネートしている。

学生スタッフは10人。登録している学生は約350人。週1回のミーティングで活動内容を決め、年1〜2回ボランティア募集団体説明会を開いている。説明会では、学外の施設・団体を招いてブースを設けてもらっている。学童保育の団体や高齢者福祉団体、障がい児・者の施設をはじめ、「グリーンツーリズム」といった農家の手伝いを紹介する団体など多彩な内容だ。

年4回発行しているボランティア室の冊子「Maitri (マイトゥリー)」の編集作業も重要な仕事。Maitriはインドの言葉で「最高の友情」との意味。冊子にも使われているボランティア室のアイキャッチの四葉のクローバーの「ハピ×ボス」マークも学生スタッフのデザイン。

田中さんは2回生からスタッフになった。先輩からの勧めで「裏方の仕事が結構好きだったので、『やってみようか』という感じでした」。スタッフになる以前も、1回生の秋から学内で聴覚障がいのある学生のためにノートテイクの活動に取り組んでいた。「筆記での作業で、なかなか満足できるノートテイクはできません」と謙遜する。また、実家がある兵庫県上郡町の隣町・佐用町では一昨年8月に死者・行方不明者20人を出す大水害があり、被害は町の家屋の2割に及んだ。そのときにはボランティアに行き、被災した家の中の泥掃除をしたり、お年寄りの話し相手になったりなどの活動に携わった。

翌年に再び佐用町へ行き、佛教大学生が活動した家を訪ねて、「Maitri」で記事にした。町にはボランティアへの感謝の看板があった。東日本大震災では、既に佛教大学の学生グループが現地入りして、復興に汗を流している。「ボランティアは責任も重いが、いろいろな人との出会いがあり、刺激を受ける。興味があればぜひ行動を」と話していた。



3 聞いてとこ!

「自分を高めるよい機会になりました」

ピックアッププロジェクト演習-2
ローカル・フード探検隊

うえだ みちあき
上田 道明先生 社会学部 公共政策学科 准教授

2組目は上田道明先生のクラスの「ローカル・フード探検隊」のみなさんにお話を伺いました。

このクラスの活動目的は「ローカル・フードを実際に食べに行こう!」。今回は、静岡県袋井市に「たまごふわふわ」を食べに行きました。

実際に現地に行ってローカル・フードを食べることで、それが地域に与える影響や、また、更なる地域活性化につながるような発想をメンバーみんなで考えました。



この演習の感想を聞いたところ、「少人数制だから、自分に与えられた役割をこなすことで、責任感・達成感を得られました。マナー、取材の流れなど、プロジェクト演習という特別な授業形態を通して、自分を高められました」というメンバーの意見がありました。

「残りの学生生活に、この経験を活かしてもらえれば嬉しいです」と上田先生はおっしゃっていました。

1 知っとこ!

プロジェクト演習とは?

プロジェクト演習とは、実際に現地や現場にはいり、身近なレベルから社会を知り、考え、行動する力を養うことを目的とした、社会学部の2回生を対象に開講される体験型の授業です。募集は、前年度の1回生の時に希望者を募集しています。

- 参加者主体の授業
テーマや地域に関する下調べ、現地・現場での実態調査、まとめ・報告等の作業を参加メンバーが議論し協力しながら進めていきます。
- 現地・現場で集中的に学ぶ
「現地にはいる・現場にはいる」ことを重視した体験型の授業です。集中的に現場に身をおくことによって、社会の実情を体感できます。
- コミュニケーション力を鍛える
学生同士、教員、住民、地域リーダー、自治体等さまざまな人びとの交流や共同作業を通して、コミュニケーション力を鍛えます。
- プレゼンテーションの力を育てる
プロジェクトの成果をビデオやパワーポイントにまとめて学内外に発信するために効果的なプレゼンテーション術を身につけます。

佛大なう

取材・編集
尾曾夏希 山本佳奈

みなさんは社会学部が行っている「プロジェクト演習」を知っていますか? 今回は、この授業について紹介します!

なうな掌話 その三

「ランチタイムの過ごしがた in 紫野キャンパス」

みなさんはお昼ご飯をどこで食べていますか? 食堂を利用する人が大半ではないでしょうか。しかし、食堂はいつもたくさんの学生で混雑していますよ。今回私が紹介するのは鹿浜館内にある喫茶BUです。ゆっくりランチタイムを楽しみたいという方に見えます。喫茶BUのサンドイッチを食べたことありますか? お手ごろ価格なのにボリューム満点! お持ち帰りも出来るので、天気の良い日は中庭で食べるのも気持ちがいいですよ。まだ食べたことがない人は是非どうぞ! [山本]



「わたしのおすすめの空間 in 紫野キャンパス」

佛教大学には、学生さんたちが楽しく過ごせるような場所がたくさんあります。友達とおしゃべりしたり、空き時間に休憩したりするうちに、自然と自分のお気に入りの空間に入りが出来ます。今回は私のおすすめ場所をご紹介します。写真の場所は、佛教大学紫野キャンパスの6号館前にある花壇です。私はよく友達との待ち合わせに使います。わかりやすく見つけやすいので、人の多い大学では助かります。他にも、ここでおしゃべりする学生さんもいます。また、この場所はよくと腰掛いてぼーっとしたりするのに最適なんです(笑)。みなさんもぜひ、足を運んでみてください。[尾曾]



なうな掌話 その四

面白いプロジェクトがラインナップ!

次年度プロジェクト演習紹介

コミュニティFM/ラジオ放送を企画・実現しよう
～オルタナティブ・メディアの可能性と実践～
担当者: 崔 銀姫 先生

京の水を考えよう
担当者: 萩原 清子 先生

オリジナルなエコツアーを企画しよう
～エコツーリズムの理論と実践～
担当者: 満田 久義 先生

鉄の旅団II～時空の超越者～
担当者: 野崎 敏郎 先生

統治の社会学
～立法・司法・行政の現状と今後のあり方について～
担当者: 松永 寛明 先生

①佛教大学を変えてみませんか?
②スポーツを通じた「まちづくり」
担当者: 大東 貢生 先生

4 知っとこ!

2 聞いてとこ!

「やはり自然は素晴らしいです」

ピックアッププロジェクト演習-1
1ターン・Uターンという生き方～もう一つのライフスタイルを学ぶ～
まつだ ともこ
松田 智子先生 社会学部 現代社会学科 准教授

1組目は、松田智子先生とそのクラスのみなさんにお話を伺いました。このクラスは、1ターン・Uターンという生き方を実践している人びとを訪ね、そこでの生活を体感することによって、田舎暮らしの魅力と課題について考える調査型の活動をしていらっしゃいました。

今回は特に、京都府南丹市の美山町での山村留学について調査を行ったそうです。

クラスのみなさんに、なぜこの演習に参加したのか理由を尋ねたところ、田舎暮らしへの興味と、インタビュー形式の授業を経験してみたいから、とのことでした。

「夏に行った美山荘での合宿では、現地の方へ



のインタビューや、アンケート調査を行いながら、田舎暮らしをリアルに体験できました」「インタビューを通して、物事の見方が変わりました。また、自分の長所を活かしたり、苦手だと感じていたことも、積極的に行動することによって克服できたと思います」という感想をいただきました。

松田先生は、プロジェクト演習を通して「いろいろな生き方をしている人がいることを見て知ってほしい。また、自分で調べたことを元に調査・分析し、まとめて提案できる能力を培い、やればできる!という達成感を身につけてほしい」と、おっしゃっていました。



注目のトピックス

「野山を翔る子どもたちが教えてくれます」

子どもエスノグラフィー～山村留学の子どもたちと一緒に学ぶ～というテーマの企画型のプロジェクト演習を開講しています。山村留学の子どもたちを対象に、楽しく学ぶことを目的としています。今後の活動が楽しみです!

平成22年度実施の「プロジェクト演習」について



ある日の岡崎ゼミ

「楽しみながら成長できた」

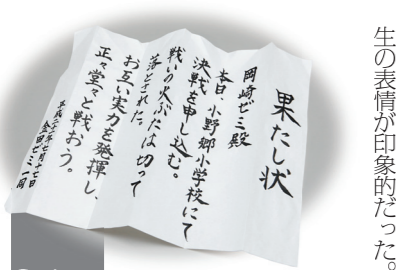


卒業論文を既に提出済みの3月にゼミ生に集まってもらい、岡崎先生から大学生活やゼミについて聞いてもらった。

大学生活については、「人間的に成長できた」「世界が広がった」「学業も頑張った」の声が多く、みんな充実した4年間を送ったようすがうかがえた。

岡崎ゼミの感想は「楽しかった」で全員が一致。このほか、▽障がい児・者福祉にしか興味があなかったが、地域コミュニティーがすごく大事で、地域を知ることが大切だとわかった▽絶対岡崎ゼミに入ろうと思っていた。高齢者や児童、障がい者などのことを学んできた人がいて、地域福祉についての考え方が広がった▽ベトナムの福祉を学びに行き、貧しいイメージで困っていると思っていたが、社会的で家なども開け放して、人と人のつながりが深いと思った▽原点は地域にあるとわかった。買い物難民という存在が実際の地域にいることも学んだ。支援していくことが重要▽これまで一番勉強した。今までは知識を詰め込む勉強でしたが、自分で調べ議論することを学べた——などの感想が多かった。

岡崎先生については、▽怒るときは怖い、普段は先生が一番楽しそうで、学生がそれにのっかっていく感じ▽年齢を感じさせない。指導力がある▽メリハリがしっかりしていて、親身に相談に乗ってくれる——など絶賛の声がほとんど。唯一苦かった欠点は「ゼミ合宿で遊びやゲームになるとムキになる、ちょっと大人気がないところ」という。



B-ism

2011 June



地元高齢者とのグラウンドゴルフ大会や、住民から歌詞の一部を募集し学生が作曲した小野郷の歌「ふる郷」の制作、小野郷Tシャツや手ぬぐい、卓上カレンダー製作など多様な活動をしてきた。

研究室には、学生たちが小野郷で活動した写真や、小野郷Tシャツなどが所狭しと飾られている。「田植えでは裸足で田に入ります。いまだきの『ギャル』もちゃんと来ますよ(笑)。一昨年度の小野郷Tシャツを作った学生は絵が上手で、センスもよかったです。今は障がい者施設で働いています」。

佛光大生については「ガツガツせず、変な競争心もなく、優しい学生が多いと思います。バイト先でもシフトに穴が開いたりして無理を言っても『ブー』と言わないので歓迎されると聞いています。温かいですね、特に社会福祉学科の学生はそうです」。

2010年度のゼミ生は、希望者が多く15人。男性3人、女性12人。前半の半年は、グループに分かれてテーマを決めて発表する。「みんな真剣。自分が考えていることをレジュメに表現できないと相談に来て、涙を流す学生もいるくらいです(笑)」。後半は一人一人が卒論に取り組み。

ゼミでは、学生同士のつながりをつくることも意識している。「孤立してはダメ。自分はゼミでどんな貢献ができるかを考えてもらっています。チームワークを発揮してほしいですから」。卒業生の表情が印象的だった。

「リアリティーのある福祉理論を」コミュニティーの大切さを学ぶ

構造改革路線の歪みや矛盾について、地域福祉の観点から提言する論客として知られ、大学でも福祉現場を志す学生たちに絶大な人気がある。研究室にお邪魔して、ゼミでの活動や佛光大生について語ってもらった。

社会福祉学部 社会福祉学科教授 岡崎 祐司



岡崎 祐司(おかざき ゆうじ) 1962年生まれ。佛光大学大学院社会学研究科博士後期課程満期退学。佛光大学社会学部専任講師、助教授を経て、現職。専攻は福祉政策論、地域福祉論。著書は「現代社会福祉論」(高晋出版)、「現場がつくる新しい社会福祉」(かもがわ出版)など多数。保育政策、高齢者福祉や障がい者福祉、地域づくりなどについて、積極的に発信している。



「実践的といわれる福祉でも理論の力は大切ですが、リアリティーのある理論でなければ意味がありません」。岡崎ゼミは地域福祉を学ぶ4回生が対象の人気ゼミだ。ゼミ生は、3回生で障がい児・者や高齢者らの施設で実習を終えている。「福祉は人を相手にし、くらしを守る仕事。したがって地域、コミュニティーが深くかかわっているということを学んでほしい」と話す。小泉政権下での構造改革路線には当時から批判的だった。「現行の枠組みで福祉を考える研究者が多い中では異端だったかもしれないが、サブライ(供給)サイド一辺倒の改革が行き詰ることは理論的に考えればわかること。人間を大切にすると政策とコミュニティー活動こそが重要なのです」。

岡崎先生は、行く先は、行論的に考えればわかること。人間を大切にすると政策とコミュニティー活動こそが重要なのです。これまでに250人以上のゼミ生を送り出した。福祉関係の仕事につき学生も多いが、地域のためにと警察官や消防士になったゼミ生もいる。「ある地方銀行に就職したのですが、辞めて福祉現場に行くという学生が2人います。折角働かせていたのに、就職先には申し訳ないと思う反面、福祉を教えた身としてはうれしい」。ゼミでは、学生同士のつながりをつくることも意識している。「孤立してはダメ。自分はゼミでどんな貢献ができるかを考えてもらっています。チームワークを発揮してほしいですから」。卒業生の表情が印象的だった。



共に、学ぶ。

保健医療技術学部の専門科目に対応した教室を設置。
知の臨床拠点にふさわしい機器等を配置。
これらの教室から、将来の医療人が羽ばたきます。



二条キャンパス
保健医療技術学部
理学療法学科
作業療法学科
看護学科 2012年4月開設予定※

交通アクセス
JR-地下鉄「二条」駅より徒歩1分
阪急京都線「大宮」駅から市バス乗車5分、
「二条駅前」下車、南へ徒歩1分

保健医療技術学部の拠点として、充実した教育環境を整備

二条キャンパス1号館が完成し、今春より理学療法学科、作業療法学科が移転し、専門科目の学びがスタートしました。保健医療技術学部の拠点として、充実した教育環境を整備している二条キャンパスはJRと地下鉄の二条駅に隣接し阪急電鉄の駅からも近い都市型キャンパスです。地上7階、地下1階建てで建物内中央には大きな吹き抜けがあり、開放感と明るさを感じさせます。実習室や講義室の他に、1階の一部をパブリックスペースとして開放、各階には癒しの空間として趣向を凝らしたラウンジを設けています。身と心を癒す「知の臨床拠点」として社会に貢献する人材の育成と、地域との交流を積極的に行います。(2012年4月より看護学科開設予定※)

「誕生!二条キャンパス 大解剖」
2012年4月 看護学科開設予定※
身と心を癒す「知の臨床拠点」として
社会に貢献する人材の育成と、
地域との交流を積極的に行います。

※届出設置書類提出中



B1F 義肢装具実習室
義手・義足の機能・構造について学びます。また、装具の作製過程を知るために、作製実習を行います。



B1F 木工・陶芸・絵画実習室
作業療法で用いられる木工や陶芸、革細工などの活動を体験し、その特性や活用方法を学びます。



2F 教室
受講人数や科目内容等によって、固定机と移動機の教室を使い分けれます。



6F 理学療法評価実習室
身体測定や関節の可動域の測定、触覚・痛覚・振動覚といった感覚の検査など、理学療法における評価について学びます。



6F 運動療法実習室
基本動作能力を改善するための運動療法について学びます。



ラウンジ
●2F(写真:右) 森をイメージした癒しの空間を演出しています。
●3F(写真:下) ピンクを基調とした華やかさを演出しています。



共に、育つ

保健医療を学ぶ学友たちとの憩いの場を設置。
多くの友と語り、学び、励ましあい、
共に育つ環境を提供します。

B-ism

2011 June

1F カフェテリア

店名の「あむりた」は学長自ら命名しました。コンセプトは地産地消。パブリックスペースのため本学生以外の方もご利用できます。



「子どもたちの良いところを伸ばしたい」

佛敎大学教育学部 生涯学習学科卒業

南山 拓也さん



南山 拓也(みなみやま たくや)
1982年、兵庫県西宮市生まれ。2006年、佛敎大学教育学部生涯学習学科卒業。京都市立嵐山東小学校、同業只(らくし)小学校教諭を経て、2011年4月から西宮市立北六甲台小学校教諭。

「モットーはどの子どもにも同じように公平に接すること」

大学時代にアルティメット部に属していただけに、スポーツマンらしい洗練とした、爽やかな印象だ。

大学卒業後、小学校教員採用試験に合格した京都市で、5年間小学校(2校)の教壇にたち、昨年、兵庫県小学校教員採用試験に合格、今春から実家のある西宮市の北六甲台小学校に着任し、5年生の担任を任せられた。兵庫県では音楽などの専任教科のほか、社会科と理科での教科担任制を採用しており、社会科の教科担任もしている。朝は午前6時半過ぎには家を出て、8時半には教室で仕事に入る。

両親と妹が現役教諭という教育一家。佛敎大学のサークルで知り合った妻も京都市、兵庫県の小学校教員採用試験に合格して、今は尼崎市の小学校で教えている。

1989年の北六甲台小学校創設時に、父がこの小学校で教えていたという。「何か、この学校とは縁を感じます。全くの偶然ですが、父は僕の赴任校を知って、驚くやら笑うやら……。『まあ頑張れよ』といった感じでしょうか。」
教諭になったのは、子どもの気持ちを知ってやれなかったと思



人が思う以上にネットを使いこなすことが出来ると思います。その中で、幼いがゆえに平気で人を傷つける言葉を書き込んだり、それをメールで友人に流し問題が起るケースが増えています。道徳教科の情報教育の一環として携帯電話の使い方やインターネットリテラシーなどで取り組んだこともあります」と語る表情は真剣だ。

大学時代の友人とは今もつながっている。「大学時代は5号館の食堂に、学科の友人といつも集まっていた。社会人になってからでも、年数回集まったり、お互いの結婚式でスピーチをしたり、親しく付き合っています」。後輩たちには「人とのつながりを大切にするのがいい」とアドバイスする。

東日本大震災には心を痛めている。「僕が小学校6年生のときに阪神大震災にいました。多くの人が亡くなり不幸なことでしたが、一方で小さいなりに水をくんだりして、近所の人とのつながりの大切さを学んだような気がします。そうした経験も伝えていきたいと思えます」と話す。

子どもたちのいいところを見つけて伸ばし、苦手なことを克服してくれるように育む。そんな先生を目指している。

坪内先生が大のお気に入り 二種類の柿



先生のお気に入り favorite 柿

第一回 文学部 日本文学科
坪内 稔典 先生の巻



柿の季節に
味わいたい
アイデアメニュー

豚バラ肉と柿の黒コショウ炒め

材料:2人分
豚バラ肉(スライス)80g、柿1個、タマネギ1/2個、中華スープの素(顆粒のもの)小さじ1、日本酒(辛口または料理用のもの)大さじ1、みりん、黒コショウ(粗びきのもの)各大さじ1/2、塩、サラダ油各適量
つくりかた
①豚バラ肉(スライス)は3cm幅にカットし、柿は一口サイズにカットする。タマネギは、横に2等分してから、1.5cm幅のくし切りにしておく。
②火にかけたフライパンにサラダ油を引き、豚バラ肉、タマネギを入れて炒め、全体に火が通ったら柿、中華スープの素、日本酒、みりんを加えてさっと炒め合わせる。
③黒コショウを入れてひと混ぜし、塩で味を調える。

次郎柿

その「じょうがき」

大まかに渋柿と甘柿に分類される柿のなかでも、背が低く、丸みを帯びた四角い形が特徴の完全甘柿。木でしっかりと熟させると甘みが増し、大きさは250〜300gほど。江戸時代後期に静岡県で栽培が始まったとされる。種はほとんどなく、甘いうえにややかたため歯触りの良い食感も魅力で、富有柿に次ぐ人気の品種。たいたい10月下旬頃から市場に出回り始めるが、「次郎」より早く成熟する「早生次郎」という品種もある。

百目柿

その「ひやくめがき」

形をした不完全渋柿。山梨や福島、宮城県などを中心に生産され、別名「甲州百目」、「富士」などと呼ばれる。大きさは300〜500gと柿のなかでもかなり大きく、百匁(375g)に近いことから「百目」と呼ばれるようになったと言われる。渋抜きされて出荷されるほか、半乾のあんぽ柿や完全乾燥の枯露柿としても利用され、熟柿としてもおいしい。

正岡子規が好きだった柿 その魅力に私もはまっています

「そもそも柿が好きになった理由は、私が研究している正岡子規が柿好きだったという機縁で、NHKテレビで柿を訪ねる番組をつくったのが始まりです。その際、柿の民俗学的な要素に深く魅かれたのです。また、柿が俳句によって詠まれたことにも興奮しました」とおっしゃる坪内先生。確かに正岡子規も「柿くへば 鐘が鳴るなり法隆寺」という有名な句を残しています。「なかでも、ごく最近に原木をたずねた次郎柿と、京都ではダイシロウと呼ばれる百目柿が気に入っていますよ」。



坪内 稔典
(つぼうち としのり、俳号はねんてん)

1944年、愛媛県生まれ。立命館大学文学部日本文学科卒業。同大学院文学研究科修士課程修了。園田学園女子大学助教授、京都教育大学教授、同大学附属京都中学校長などを経て、2002年から現職。俳句グループ「船団の会」代表を務める。

受験生向けイベント

■ オープンキャンパス 6月12日(日)、8月5日(金)、8月6日(土)、8月7日(日)、9月4日(日)、10月9日(日)
いずれも10:00～16:00 於：紫野キャンパス、二条キャンパス

BUまなび隊(公開講演会)開催予定

※BUまなび隊は通信教育課程が開催する地方オープンキャンパスの呼称です。

Table with columns: 日程, 場所, 会場, 講演内容. Rows include events at Osaka, Tokyo, and Hiroshima.

宗教文化ミュージアム 〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26 TEL(075)873-3115

Table with columns: 日時, 公演内容. Rows list various exhibitions and performances at the museum.

2010年度 定年退職のみなさま

● 文学部 教授 市橋 弘道 ● 社会学部 教授 丸山 哲央 ● 社会福祉学部 教授 阿部 祥子

長い間、本当にありがとうございました。今後さらなる活躍をお祈り申し上げます。

気がつけば今年も梅雨の時期を迎え、季節のうつろいの早さに驚きすら感じるこのごろですが、このような想いの中には、徒然草第155段を思い浮かべています。そんな中、ようやく「B-ism」NO.2を刊行することができました。本学のほんの一端ですが、魅力を感じていただければ幸いです。

佛科大学広報課

B-information

みんなの掲示板

2011年夏～秋までの主な行事予定

Date 7/2 (sat.)

13:00～

看護学科開設(予定)記念講演会

- 看護学科からのメッセージ
日隈ふみ子(看護学科長就任予定)
看護協会会長のメッセージ
久常節子(日本看護協会会長)

Date 9/25 (sun.)

学位記、卒業、修了証書授与式 (9月卒業・修了)

読者プレゼントのお知らせ
佛大オリジナルグッズをプレゼントいたします。
同面添付のアンケートハガキにてご応募ください。



Date 10/30 (sun.)

11/1 (tue.)

公募制推薦入学試験

ホームカミングデー
佛科大学の同窓生を対象として開催します。学間に、課外活動に、青春時代を過ごした大学に、ぜひお越し下さい。

Date 10/30 (sun.)

11/1 (tue.)

第45回鷹陵祭(学園祭)

more action, more smile
佛科大生のみならず、老若男女すべての方に笑顔があふれる学園祭を開催!

2011年度 新規採用者紹介

● 教員 ● 職員

Faculty introduction: 伊藤 真宏 (いとう まさひろ)
准教授 仏教学部

Faculty introduction: 瀬戸 賢一 (せと けんいち)
教授 文学部

Faculty introduction: 川北 稔 (かわきた めいのる)
教授 歴史学部

Faculty introduction: 李 昇煒 (い すんよび)
准教授 歴史学部

法然上人の文献や思想、仏教歌謡・和讃などを研究してきました。迷いの人生を生き抜くヒントが見つかった法然思想を学生に伝え、歴史的事実としての法然像を追究します。

京都生まれ京都市育ちです。英語のしつくりを研究しています。また、外国語の視点から見た日本語にも興味があり、ことばの不思議と日々向き合っています。

佛科大学として、はじめて西洋史学のコースができたので、世界的な、広い視野をもって21世紀を生き抜ける、若者をそだてていきたいと思っています。

韓国ソウルで生まれ育ちました。霸気(権威)溢れる20代の青年が海を渡って来て以来、京都の地で11年目の春を迎えます。今やずんなりと京都が第二の故郷になりましたが、時には「移民一世」ならではの悩みを感じる場面もあります。

Faculty introduction: 鈴木 康広 (すずき やすひろ)
教授 教育学部

Faculty introduction: 水上 象吾 (みずかみ しょうご)
講師 社会学部

Faculty introduction: 渡邊 保博 (わたなべ やすひろ)
教授 社会福祉学部

Faculty introduction: 日隈 ふみ子 (ひのくま ふみこ)
教授 保健医療技術学部

特任教授として既に2年間、佛科大学にお世話になっています。専任教授として新たに気を引き締めて、時に厳しく、そしてしなやかに、研究、臨床実践、教育(指導)を行っていきたくと思っています。

都市の緑などの環境について研究しています。豊かな庭園があり、歴史のある京都の街並みを学生と共に楽しみ、学んでいきたいと思います。

「子どもは私たちとおとなの先輩」です。私たちとおとなが育てている世界の一歩先。二歩先を生きていくことになる人生の先輩。子どもたちは、私たちが築き上げた時代を生きているフロンティア。その先陣におかれ、共に生き、多くのごことを学んでいきたいと思います。

看護学科設立準備のため、5年ぶりに京都に戻ってこられることになりました。社会から期待のかかる看護師を佛科大学から輩出できる喜びに溢れながら頑張りたいと思います。

Faculty introduction: 七里 展子 (しちり のぶこ)
講師 保健医療技術学部

Faculty introduction: Daniel teuber (ダニエル テューバー)
外国人契約講師

Faculty introduction: 青井 尚子 (あおい なおこ)
キャリア支援部

Faculty introduction: 東山 祐子 (とうやま ゆうこ)
総務部(通信)

身体に障害を持たれた方や高齢者の動作や姿勢についての研究をしています。医療現場や養成校教員として活動してきた経験を生かし、学生の皆さんと共に学び合いたいと思っています。

今年度から佛科大学で教職を執ることを楽しみにしています。私自身、日本語を勉強し始めてから16年。外国語を学ぶ楽しさと使える喜びを学生の皆さんにも経験して欲しいと思います。

佛科大学の更なる飛躍とともに、私自身向上心を持って自分を高めたいと思っています。職員として、学生目線で物事を見たい姿勢を忘れず、視野を広く持ち、学生のために日々努めていきたいと思っています。

この春より、職員として働けることとなり大変嬉しく思っております。佛科大学の新たな百年がより豊かなものとなるよう、精一杯取り組みます。

Faculty introduction: 西田 麻希 (にしだ まき)
学務部(通信)

Faculty introduction: 拝野 香織 (はいの かおり)
学務部

Faculty introduction: 丸谷 尚永 (まるたに なおひさ)
学生部

Faculty introduction: 森岡 達圭 (もりおか たっけい)
総務部

佛科大学の事務職員として働けることを大変嬉しく思っております。自分を育ててくれた大学や、学生に貢献できるよう、感謝の気持ち忘れず、自分自身を磨き、努めていきたいと思っています。

佛科大学の職員として働けることを心から嬉しく思っております。学生生活の充実や大学の発展のため、日々精一杯努力し、責任感をもって仕事に取り組んでいきたいです。

この度、佛科大学の事務職員として働けることを大変嬉しく思っております。佛科大学の発展に貢献できるように、精一杯努力していきたいと思っています。

佛科大学の職員として働けるご縁を幸せに感じています。誰に対しても謙虚な姿勢を忘れず、佛科大学の一員という自覚と責任と誇りを持ち、業務を通して貢献します。